

第71回

満月の夜開くけいはんな哲学カフェ

ゲーテの会



「新しい文明」の萌芽を探る

日本と世界の歴史の転換点で、転轍機を動かした「先覚者」の事跡をたどる

科学・技術

文明の生態史観を生んだ旅 -梅棹忠夫の“旅と思想”-

小長谷 有紀 [講 師] 日本学術振興会 監事、国立民族学博物館 客員教授

1957年大阪府生まれ。1979年に、日本人女性として初めて、社会主义下のモンゴルへ留学し、以来、遊牧民たちの生業技術から儀礼まで幅広く研究してきた。1987年にはまだ文化大革命の傷が深く残る内モンゴル社会科学院に留学し、文献学の研鑽を積む。近年では、中国およびモンゴル国で口述史を収集し、社会主义化前後のリアルな記憶を鮮やかにうつしとることに成功している。長年、国立民族学博物館に勤務し、1998年には特別展「大モンゴル展」を、2011年には特別展「ウメサオタダオ展」を企画運営した。2007年、モンゴル国より友好勲章を、2013年春には紫綬褒章を受章した。

[講演要旨]

梅棹忠夫の山歩きや探検の記録は、ほぼすべて国立民族学博物館に残されており、「梅棹アーカイブズ」と総称されている。それらは現在も整備中であり、随時、公開されている。講演者は国立民族学博物館に勤務した最初の仕事として、梅棹著作集第2巻『モンゴル研究』の編集を任せられ、没後には、著作集に関わった最年少者であったため、追悼展を担当した。その際に、モンゴルに限らず、アフリカ、ヨーロッパなど世界中に出かけた彼の足跡を資料で追いかけ、「梅棹アーカイブズ」の全容を調査しなければならなかった。この時の経験は、拙著にまとめてあるのでぜひご参照いただきたい。

今回の講演では、とりわけ「文明生態史観」に関連する資料を取り上げ、綿密な観察と記載、素朴な発見を経て、大まかな見取り図が完成する様を確認しよう。また、そうした思索の旅の原点がモンゴル調査であったこともぜひ追認しておきたい。なお、現在は梅棹生誕100年展を準備しているので、乞うご期待。

[参考図書]

ご講演の内容の理解を促進するために次の図書が有益です。

小長谷有紀『ウメサオタダオが語る梅棹忠夫アーカイブズの山を登る』ミネルヴァ書房

どなたでも
ご参加いただけます。
ぜひ、お誘いあわせの上
ご参加ください。

日 時 2019年5月17日(金) 18:00~20:30

会 場 国際高等研究所コミュニティホール

〒619-0225 京都府木津川市木津川台9丁目3番地

参 加 費 2,000円(交流・懇談会費用を含む)

定 員 40名(申し込みが定員を超えた場合は抽選)

申 し 込 み ホームページからお申し込み下さい
<https://www.iias.or.jp/communication/goethe>

締 切 2019年5月16日(木)

けいはんな「ゲーテの会」とは…

けいはんな学研都市の建設理念は、「従来の近代科学技術文明を乗り越え、新たな地球文明を創造するために、西欧が生み出した文明の成果と自らに固有の東洋的文化を総合すること」にあります。

研究所の庭園にあるゲーテの胸像はその理念のシンボルです。満月の夜は国際高等研究所で、人類の未来と幸福、そしてけいはんな学研都市について考えてみませんか。



お問い合わせ

ゲーテの会事務局

Tel: 0774-73-4000 e-mail: goethe0828@iias.or.jp

主催: 公益財団法人国際高等研究所

IAS 公益財団法人
国際高等研究所